

古代から続く祈りの道

— 大和の石仏巡行 —

第5回 宇陀市・室生寺と大野寺の石仏



元 久留米工業高等専門学校教授
伊藤 義文

1. 歴史

室生寺は天武天皇の勅願により、修験道の祖である^{えん}役の行者・^{おつぬ}小角がこの地に初めて寺を建立したと伝えられています。奈良時代末に至り、後に桓武天皇となられた山部親王の延寿祈祷をきっかけに、興福寺の高僧・賢環^{けんげい}が勅命を受け、平安遷都まもなく、弟子の修圓が堂塔伽藍を建立しました。図1に、仁王門と国宝の五重塔の写真を示します。春には桜、晩春には石楠花、初夏には青もみじ、秋には紅葉が平安初期の美しい伽藍を彩り、昔と変わらぬ室生寺ならではの景観が広がります。同じ真言宗で昔は女人禁制だった高野山金剛峯寺に対して、室生寺は女人の参詣を許可し、そのため^{たけのこ}女人高野と呼ばれ、女性の信仰を集めています。

一方、室生寺の西の大門に位置する大野寺は室生寺派の寺院で、創建は役小角と伝えられています。宇陀川を挟んだ対岸の自然石に刻まれた弥勒磨崖仏があることで知られ、図2に示すように枝垂れ桜の名所としても知られています。弥勒磨崖仏は、興福寺の僧・雅縁の発願により、承元元年（1207年）から制作が開始され、同3年に後鳥羽上皇臨席のもと、開眼供養が行

われたとの記録が残されています。

2. 室生寺の石仏

室生寺の石仏としては、図3に示すように五重塔から奥之院に繋がる道筋にある四国巡礼八十八カ所の写し霊場があります。四国巡礼を容易に行うことのできない人々のために、霊場を象った石像などを1カ所に集め、その場ですべての霊場を巡るように整えられた場所です。また図4に示すように、金堂の東側の大きな岩に約1mの舟形を彫りくぼめ、像高約80cmの軍荼利明王を半浮き彫りにしています。10本の手を持つ異様な姿の石仏であります。日笠を被ったような炎髪とユーモラスな顔にはどことなく親しみが持てます。江戸時代の庶民の信仰の息吹が案じられる石仏です。

3. 室生川の恵比寿大黒

龍穴神社は室生寺よりも古い歴史を持つ古社で、水の神、竜神を祀っています。平安時代には朝廷から雨乞いの使者が遣わされたといわれ、雨乞いの神として知られています。室生寺から



図1 室生寺・仁王門と五重塔



図2 大野寺の山門と枝垂れ桜



図3 室生寺・八十八力所写し霊場

室生川を1kmほど上った所にある恵比寿橋の対岸に彫られた地蔵菩薩がありますが、伝説では龍穴神社から現れた竜王が爪で彫ったといわれ、恵比寿大黒と呼ばれています(図5)。

4. 大野寺の弥勒磨崖仏

宇陀川の対岸に屹立している弥勒磨崖仏は伊行末の一派の作といわれ、様式の上からは奈良時代の笠置磨崖仏を模して造られたと書かれています。高さ33mの岩に凹みを設け、その内面を平滑に仕上げたうえで、弥勒仏の立像を線刻しています。仏身の高さは11.5mで日本彫刻史上重要な遺例となっています。図6左のように、実像はかなり経年劣化が進んでおり、弥勒仏のお姿がはっきりしないため、図右に太田古朴氏の実写図¹⁾を併せて示します。特徴として、頭部を特別に細高い松かさのような螺髪るいほつにしているのは他に例がなく、強く個性を出しています。やや下を見下ろした穏やかなお顔に、手足、衣紋の線も流麗で美しく、温かい眼差しが感じられます。左手を上げ右手を伸ばし、片足ずつ蓮華座ふみわりに乗る踏割蓮華座上ふみわりに立っています。

5. まとめ

奈良県宇陀市を流れる宇陀川対岸の大岸壁に彫られた巨大な弥勒菩薩像は国内最大の線刻磨崖仏であり、貴重な磨崖仏として1920年に国の史跡に指定されています。

壮大で美しい弥勒仏が見下ろす川辺は、長く聖地として尊ばれてきました。漁の禁止はもちろん、川の向こうの道は牛馬の通行も憚られたといえます。ただ、800年以上の歳月が流れ、線刻は一部で苔や土砂に埋もれたり、表面が剥落したりして像容がぼやけたものになっています。93年には大規模な保存修理が行われましたが、現在でもくっきりとしたお姿を見ることはできないのが残念です。

今回の石仏の動画はYouTubeにアップロードしていますので、ぜひ次のキーワード検索で美しい動画をご覧くださいければ幸いです。

・検索：宇陀市・大野寺、室生寺の石仏 - YouTube

URL：https://studio.youtube.com/video/r8IPvdBrhEc/edit

【引用文献】

1) 太田古朴：大和の石仏観賞、綜芸舎(1966年)



図4 室生寺・軍荼利明王の石仏



図5 室生川・恵比寿橋の恵比寿大黒

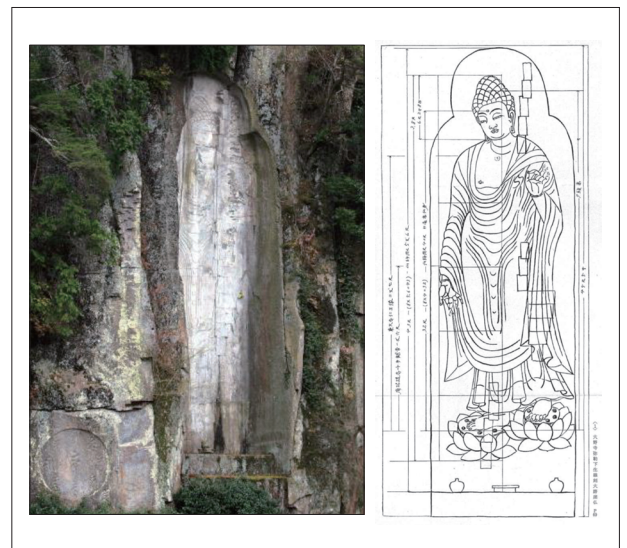


図6 弥勒磨崖仏(左)と太田古朴氏による実写図

著者略歴



1947年生まれ。72年、京都大学大学院卒業。以降、民間企業にて真空蒸着技術のフィルム応用や各種包装材料の開発に携わる。2004年、久留米工業高等専門学校教授。15年、退職。ライフワークとして石仏調査を行い、その成果をYouTube (https://www.youtube.com/channel/UCvJiTXSHW2MoqwzdzpszXcOQ) に公表している。
✉ itou910@zeus.eonet.ne.jp